

婦血及び非妊婦血を用い、血清と血球とを分離して測定した結果によれば、従来の成績と同じく E は大部分血清中に存在するようである。

(2) 正常月経周期婦人の血中 Estrogen 分劃：性周期の推移に伴い、尿中 E 量並びにその分劃が變動することはすでに知られているが、われわれは尿中 E 分劃と平行して血液中のそれを追求した。卵胞期には一般に低値を示し、排卵期及び黄体完成期には高値を示す。遊離 E O 分劃の變動は比較的少なく、排卵期には遊離並びに蛋白結合の ED、蛋白結合 E O 及び遊離 E T の増加が認められる。

(3) 妊娠時における血中 Estrogen 分劃：Verdhuis の報告とほぼ同様の成績をえた。妊娠による血中 E は漸増し、妊娠 4～5 カ月では総量がほぼ $1.3 \gamma/10cc$ で、そのうち E O が約半分を占め、E T が E O の半量、E D はそれよりも少い。PbE は F E より多く、その約 $\frac{2}{3}$ は E O、 $\frac{1}{3}$ 弱は E T で、E D は少ない。妊娠 10 カ月前半では総量はほぼ $1.7 \gamma/10cc$ で、その分劃比及び F E と PbE との比率は妊娠前半期とほぼ同様である。妊娠時には正常性周期における排卵及び黄体完成期の分劃、比率とほぼ逆の成績をえたことは興味深い。

95. 混合性腺刺激ホルモンに対する Tannin 酸の Maxwell 効果

(横濱中央) *庄田芳次郎, 藤田和雄,
落合茂穂

Tannin 酸は、それ自體では性腺刺激作用を持たないが、Gonadotropin とともに與えると、その作用及び持続性が強められることが認められている。Tannin 酸處理による Maxwell 効果は、前葉性 Gonadotropin に強く認められるが、絨毛性 Gonadotropin に對しては比較的弱いと考えられている。私達は前葉性 Gonadotropin と絨毛性 Gonadotropin を適當比に混合した天然性混合性腺刺激ホルモン (P.C.Gn) に Tannin 酸を結合せしめた Tannin 酸混合性腺刺激ホルモン (P.C.Gt) の効果を觀察したので報告する。

實驗成績

〔A〕幼弱雌性白鼠實驗

體重 45～60g の幼弱雌性白鼠 5 匹を 1 群として、一定量 ($\frac{1}{5}$ ～40 i.u.) の P.C.Gt 及び P.C.Gn を 1～6 回に分劃、皮下及び腹腔内に投與して、性器重量、性周期、卵巢所見について比較觀察を試みた。

(1) P.C.Gt では 1 回注射でも分劃注射でも、性器に對する効果に著差は認められなかったが、P.C.Gn では分劃注射の方が効果が大きであつた。

(2) P.C.Gt は P.C.Gn に比して効果發現が遅れるが持続性に勝り、かつ最大効果は大であつた。

(3) 腹腔注射では P.C.Gt は P.C.Gn に比して、性器に對する刺激効果が大き、兩 G 間における差異は著明であつた。

〔B〕成熟家兎實驗

(1) 體重 2 kg 以上の成熟雌性家兎の卵巢に出血、排卵を起させるのに要する P.C.Gn 量は、皮下、經口投與共に P.C.Gt 量の 1.5 倍～2 倍を要した。

(2) 成熟雌性家兎 3～5 匹を 1 群として、2 群を使用し、兩 G 150～200 i.u. を皮下、靜脈、腹腔内に投與して、3, 5, 7, 10, 12, 15 日に開腹して卵巢効果については卵巢の發育状態、出血黄體の數を、子宮効果については充血量、筋層粘膜の肥大度及び黄體反應を比較觀察した。

卵巢効果

(1) 皮下投與の場合、P.C.Gt は P.C.Gn に比して効果發現が遅れるが、持続性が強く、第 12～第 15 日においてもなお多數の出血黄體を認めた。

(2) 靜脈注射では兩 G 間に差異は殆んど認められなかった。刺激効果は他の投與方法に比して最も早くかつ著明であつた。

(3) 腹腔投與においては兩 G 間に著差が認められ、P.C.Gt では第 10 日目においても多數の出血黄體が認められたが、P.C.Gn では全経過を通じて多數の出血黄體は殆んど認められなかった。

子宮効果

(1) 皮下投與の場合、粘膜の黄體反應は P.C.Gt では第 18～22 日においてもなお第 III 期像が認められたが、P.C.Gn では早期に第 II 期像に歸した。

(2) 靜脈投與では兩 G 間に差異が殆んど認められなかったが、第 IV 期像に近い所見を示した。

(3) 腹腔投與では兩 G 間に著差が認められ、P.C.Gt では第 III 期像を示したが、P.C.Gn では第 III 期像を示したものはなく、第 5 日にてすでに第 I 期像に歸した。

Tannin 酸混合 Gonadotropin は天然混合 Gonadotropin に比して卵巢及び子宮効果が強く、持続性も勝っており、かつ經口投與の可能性も認められた。

96. クロールプロマジン (Cp.) のトロホラス トホルモン (T.B.H.) 作用に及ぼす影響について

(徳島大) *飯田無二, 沖津 治

從來トロホラス トホルモン (T.B.H.) 臨牀應用について發表してきたが、今回 T.B.H. の作用機序解明の一手段としてクロールプロマジン (Cp.) を應用して T.